

第 4 回北名古屋市市民協働指針策定委員会 報告

日 時 平成 24 年 12 月 12 日（水）18:30～21:00

場 所 北名古屋市役所 西庁舎分館 2 階 第 3 会議室

出席者 11 名 傍 聴 なし

■第 4 回の概要

1. 市民協働カフェ実施報告
2. 指針たたき台の検討

1. 市民協働カフェ実施報告

事務局より実施結果を報告しました。

日時：11 月 4 日（日） 9:30～21:00（全 3 回） 場所：健康ドーム 1 階 研修室

各回の参加者実績：

午前の部：9:30～12:30 37 名

午後の部：13:30～16:30 24 名

夜間の部：18:00～21:00 21 名 計 82 名

ファシリテーター：加藤武志（まち楽房有限会社代表、中京大学現代社会学部講師）

参加者に書いてもらったアンケート結果を、指針に反映させ、たたき台を作成しています。

2. 指針たたき台の検討

全体に関すること

- 指針の対象（読者）を市民活動団体のリーダー層とし、内容を協働の基本方針とする

指針の想定読者を一般市民とするか、団体のリーダー層とするか、委員の間に認識の違いがあり、それに伴い内容も協働を拡げるための広報ツールとするか、協働のマニュアルとするかというイメージの相違がありました。議論の結果、「一般市民が活動をはじめのきっかけとなるのは人と人のつながりであり、紙媒体では難しい」、「既存の市民活動団体が自主・自立し、市からの助成金を得られるような団体にしていくための指針が必要」、「実際に市民活動団体が協働しようと考えた時に、これを読めばわかるというものが必要」等の意見が出て、決まりました。

なお、協働を推進するための方法は、行政の市民協働推進施策のなかで検討する（市民協働担当者会で案を出す予定です）。



第 1 章

- 説明する項目を、1. 少子高齢化、2. 税収減、3. 地域コミュニティのあり方の 3 つとする。
- たたき台の「3. 市民協働で目指すまちの姿」を第 2 章として独立させる

人口予測のデータを、市役所で把握しているものに差し替えた結果、1 のうち、人口の減少については、それほど急激なものではないということがわかりました。また、現状の高齢化の説明では、高齢になることが悪いことのような印象を受けるため、少子化の説明も加え、地域で北名古屋の次世代を育てていくことの重要性を盛り込むことに決めました。

2 については、行政改革の進行具合をグラフ等で示したほうが、協働の必要性についての理解につながるのではないかと意見がでましたが、記述が多くなり読みやすさを損ねることが懸念され、本文中には盛り込まないことに決めました。なお、根拠資料としては用意をしておき、市民からの問い合わせがあった際は説明ができるようにしておきます。

1、2 の内容が市の問題点だけをあげる内容になっているため、(3)として東日本大震災以降に見直されてきた「絆」や、高齢社会を迎えるにあたっての助けあいの重要性等、これからの地域コミュニティのあり方についての提案を置くことになりました。

たたき台の「3. 市民協働で目指すまちの姿」については、現状の説明にあたらなため、第 2 章として独立させることにしました。また、次章以降とのつながりを示すために、目指す姿を実現するため、今ある市民活動を充実させること、市役所も協働をすすめることを盛り込むことになりました。

(以下の記録ではたたき台の章番号で記述してあります。)

第 2 章 北名古屋市の市民活動

- 掲載する団体を委員からの推薦を参考に決める
- 次章とのつながりがわかる記述を加える

市民活動の紹介として、団体の例示を 8 団体程度掲載することができます。掲載する団体は委員の方から推薦を参考に掲載することになりました。

また、次章の市民協働とのつながりをわかりやすくするため、市民活動の課題として、横の連携がないこと、市民同士、行政との連携によりもっとやれることがある等の記述を追加します。

第 3 章 市民協働をはじめよう

- p11 の例示について、3 つの事例の違いがわかるように記述する
- p12 の岩崎先生の解説は削除し、市民が担うべきこと、行政が担うべきことの方針についての説明を、p10 の図のところに記入
- 協働で小金が稼げる旨の記述は入れない

p11にある協働事業の例示については、補助、共催、事業協力の3つのパターンが掲載されています。しかし、この3つの携帯ごとの違いが、一読してわからないので、明確にすることになりました。

p12の岩崎先生の狭域有効、広域効率の解説については、次章とのつながりがわかりにくいため、p10の市民協働の範囲を示す図のところに持ってくることにしました。

また、協働への動機付けとして「小金が稼げる」ことを入れようかという議論が前回までにありましたが、必ずしもお金のやりとりが伴うわけではないため、説明としては割愛することにしました。

第4章

- 協働のステップを協働のルールとして、表現をわかりやすく書き直す
- 協働のルールをどのように使うかを説明する記述を入れる
- 市民に期待されることとして「団体の透明性の確保」「組織の継続性の確保」の二点を追加

協働のステップについて、難しくやる気が起こらないとの指摘がありました。また、不要ではないかとの意見も出されましたが、実際に協働をする際には、団体どうしが互いを守るために必要であるとの意見があり、時系列の記述をなくしてルールとし、表現をやわらかくすることにしました。